

中村耳鼻咽喉科だより

＝ 流行性耳下腺炎 ＝

(おたふくかぜ)

VOL.22

どんな病気？

発熱を伴い、突然耳の下が腫れ、痛みがあり、おたふくさんのような顔に…



ムンプスウイルスが原因で起こる伝染性疾患です。

両側が同時に腫れる事が多いのですが、どちらか一方が先に腫れた場合は1～2日後に他方が腫れてくるのが普通です。通常腫れは1～2週間で軽快し、熱は3～4日後に解熱する事が多くみられています。

耳下腺とは？

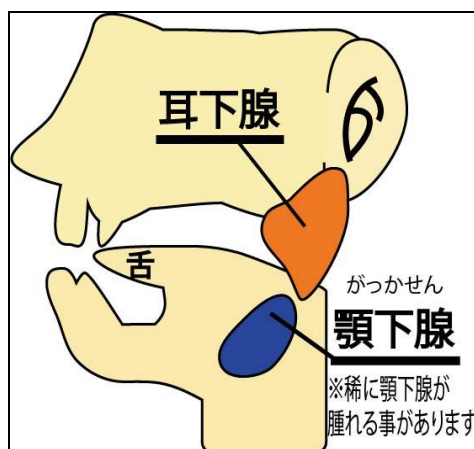
消化酵素などを含む唾液を分泌する大唾液腺の1つで耳下腺炎とは唾液腺の疾患です。

口を開けた時に痛んだり、食べ物を食べた時に唾液が分泌され痛みが増えたりする

るので食事の際は、

●柔らかくてのと越しの良
い食べ物を食べる(プリン、
おかゆ、うどんなど)

●酸味の強い食べ物(唾液の
分泌を促進するもの)を避
けるといいでしょう。



好発年齢・感染様式

4～10歳での発症が最も多くみられます。保育所・幼稚園・小学校などの集団生活の中で感染する機会が増えると考えられています。

感染様式は、飛沫感染(咳やくしゃみなどをする事によって排出されたウイルスを吸い込むこと)ですが、直接接触や唾液による間接的な接触感染も成立します。しかし、中にはウイルスに感染していても症状が出ない場合があります。(不顕性感染)。この場合でも、感染はしてしまうので、周りにおたふくかぜが流行っている場合は要注意です。



学校保健法で耳下腺の腫れが引くまでは、出席停止とされています。



少しでも異変を感じたら
医療機関を受診しましょう！

「おたふくかぜになっ
てしまったら？」

特効薬はありませんので、
耳下腺が腫れて痛む場合は、
冷やしたり、痛み止めを飲
むなど症状を和らげる治療
しかありません。腫れが引
くまでは、感染防止のため
外出を避け安静にしてい
て下さい。

「おたふくかぜワクチン

1歳以上で接種できます。
1歳になり麻疹・風疹ワク
チンを接種した後で、遅く
とも集団生活を開始する前
までの接種が望ましいでし
ょう。予防接種によって抗
体がつく確率は、約95%
といわれていますが、しっ
かりと免疫をつけるために、
1回目の数年後に2回目の
接種をする事が推奨されて
います。

「おたふくかぜの合併
症に要注意！」

- ・長引く発熱
- ・強い頭痛や腹痛
- ・嘔吐、めまい

このような症状が続く場
合は合併症を引き起こして
いる場合があります。

「ムンプス難聴

合併症としてムンプス難
聴と呼ばれるものがありま
す。約1000人に1人程
度に合併し、片耳(稀に両耳)
に重度の難聴が起こるもの
です。15歳以下特に、5
〜9歳の患者に発症しやす
いとされています。片耳だ
けに発症する事が多いため、
意外と気づけないでいる事
が多いです。(特に小児の場
合)。
おたふくかぜになってし
まった時に、難聴になって

いないかを、耳元で音を鳴
らして聴こえを確かめる方
法があります。もし、聴こ
えに異変を感じたら医療機
関を受診しましょう。
ムンプス難聴は、有効的
な治療法がないため、ワク
チンの接種が唯一の予防法
となっています。

最後に

おたふくかぜは、1度かかる
と終生免疫を得て、2度はかか
らないとされてきましたが、近
年では免疫が徐々に弱まり2度
かかる症例も報告されています。
また妊娠中に感染すると、流
産してしまう確率があがつてし
まうため、ムンプスの抗体を持
っていない場合は妊娠前に予防
接種をするなど特に注意が必要
です。
年齢が高くなるにつれて、重症
化する傾向が高いので、好発年
齢が過ぎていても予防接種を受
けていない方は、接種する事を
推奨します。